

1) 西表島植物誌編纂事業 X

米倉浩司¹・阿部篤志¹

キーワード：西表島 植物相 植物誌編纂 データベース化

1. はじめに

西表島（八重山郡竹富町）は、令和3年に世界自然遺産に登録され、注目されている地域の1つであるにもかかわらず、信頼に足る島全体の植物相は作られておらず、世界遺産の価値を長期にわたって保全する上で障害となっている。そこで当財団では、琉球大学、鹿児島大学などの研究機関とともに平成29年度より本事業を開始し、西表島全域の野外踏査を実施している。さらに過去に採集された西表島産標本情報を集積すべく鹿児島大学、京都大学、琉球大学、東京大学などにおいて標本調査を進めている。令和7年度には現地調査を実施しなかったため、標本調査と出版に向けた準備にかかわる結果を報告する。

2. 調査方法

過年度に引き続き鹿児島大学総合研究博物館(KAG)、東京大学総合研究博物館と共同研究契約を締結し、西表島とその周辺地域（琉球・台湾）の標本の画像データベースの構築を行った。また、東北大学(TUS)、東京都立大学(MAK)、神奈川県立生命の星・地球博物館(KPM)、国立科学博物館(TNS)においても西表島を含む琉球産標本のデータベース化と画像取得を行い、今年度はこれに加えて愛知みどりの会(AICH)に収蔵されるシダ植物標本も調査した。米国のU.S. National Herbarium (US)、英国キュー王立植物園(K)、オランダのナチュラリス・生物多様性センター(L, U, WAG)、中国のChinese Virtual Herbariumのホームページ上で公開されている画像付き標本データベースからも西表島産の標本を抽出

し、画像から同定をチェックした上でデータベースに加えた。過年度にデータの提供を受けた琉球大学(RYU)については、実際に訪問してデータベース未収録の標本の追加を行い、さらに標本画像の提供を受けてデータベースのチェックを行った。琉球大熱帯生物圏研究センター西表研究施設で保管されていたトランセクト調査標本についても、琉球大学理学部標本室への移管とデータベース登録を行った。

これらの標本庫毎に得られたデータを、採集者と採集年月日、採集者番号を典拠として重複標本や集団サンプリング標本を統合したデータベースを作成した。この過程で、特に古い時代の手書きされたラベルにおいて、文字の判読が困難であったり、データベース上の地名や人名、日付の表記にしばしば誤りが含まれることが明らかになったため、統合に際しては元の標本ラベル上の表記に遡ってチェックを行った。

3. 結果と今後の課題

1) 標本調査と統合データベースの作成

当財団所蔵の標本の整理、貼付とデータベース化を進め、令和7年度には西表島産219点をデータベースに登録した。AICH(新規)、KAG、KPM、KYO、MAK、TI、TUS、TNSなど、国内標本庫との共同研究や、訪問してデータ取得を行った結果、西表島産標本に関してそれぞれ286点(AICH)、9点(KAG)、527点(KPM)、1315点(KYO)、181点(MAK)、945点(TI)、1847点(TUS)、59点(TNS)をデータベース化した(琉大熱生研のトランセクトコレクションについては今年度まだデータを受け取っていない)。これらの個別データベースと、海外標本データベース(638点(K)、3点(L)、67点(US)など)、およびWalker(1976)など文

¹植物研究室

献に引用されたその他の標本の採集データをもとに統合を行い、計 56825 点（昨年度末より+1530）（令和 7 年 3 月 18 日現在）からなる統合データベースを作成した。

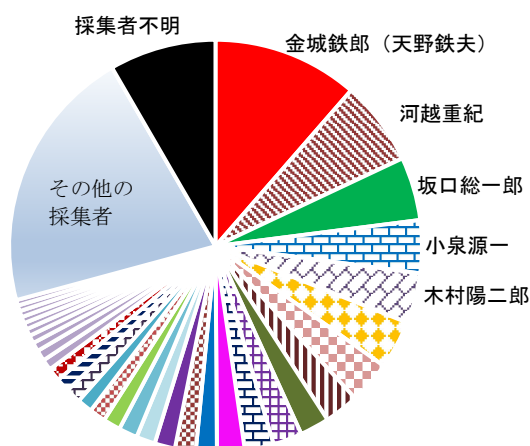


図-1 琉球諸島における 1945 年より前に採集された標本 (10627 点) の採集者内訳。不明のもの (889 点) がかなりの数にのぼるが、半分近くは真の採集者を推定することができた。



写真-1 金城三郎 (1878-1928) の標本。左：MAK (ツルハグマ)。右：II (レンギョウウエビネ)。右標本は採集者が内山富次郎 (東大植物園) となっているが誤りである。採集地は左が西表島と推定され、右が石垣島である。



写真-2 愛知みどりの会 (AICH) 所蔵のシダ植物標本。芹沢俊介 (元愛知教育大学) の標本を主体とし、東京都高尾自然博物館研究報告 7-9 (1975-1978) の証拠標本を収蔵する。カザリシダ (左) やナンカイイタチシダ (右) のように、芹沢以外には誰も西表島で採集していない種の標本を確認できた。

2) 調査成果の公表

上記の標本データベースの構築の過程で判明した、あいまいな採集者や採集年月日の解読の手がかりについて、熊本大学で開催された日本植物分類学会大会で発表した。また、前年度までの琉球大学熱生研との合同調査の成果として、西表島内の種多様性と植生タイプの分布パターンの特徴を、同学会で発表した。

3) 普及・啓発活動

沖縄国際洋蘭博覧会 (令和 8 年 1 月 24 日～2 月 1 日) にあわせた海洋博記念公園やんばるギャラリー特別展示「沖縄の珍しい野生ラン展 ～探査と保全の最前線!～」において、西表島植物誌プロジェクトを紹介し、その過程で再発見されたコカゲトンボの紹介を行った。

4. 西表島植物誌の編集状況と、第 3 回西表島植物誌編纂委員会

出版事業の 1 つとして令和 8 年度中の出版を目指す『日本の野生ラン図鑑』について、出版契約を締結した株式会社ウッズプレス (森弦一代表) と、同図鑑の出版後に西表島植物誌の編集出版に関与していただけるよう打診を行い、内容に関する説明を行った。今年度はラン図鑑の発行に向けての契約締結

などの折衝に注力したため、西表島植物誌の編纂は停滞する事態となった。前年度からの課題であった標本画像の整理や執筆者との連絡担当者は未だ不在のため、主要な執筆者に対しては執筆要綱などの共有を行ったものの、執筆に不可欠な標本画像データの整理が追い付かず、標本調査とデータベース構築で手一杯となっている。

次年度の早うちに編集会議の開催を行い、それまでには画像の共有を進める予定である。

5. 外部評価委員会コメント

西表島植物誌の出版については、いまだ具体的なロードマップさえ出来ていない。事業の停滞原因を明らかにし、体制を再構築するなどの対応が必要。また、原点に戻って西表島植物誌出版の可能性についても議論が必要。

(花城顧問：沖縄美ら島財団前理事長)